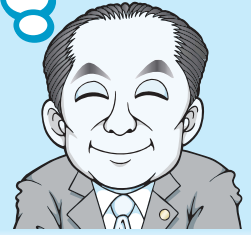


# 町長の一言



## 公園墓地計画のその後(II)

平成17年10月の町ホームページに、平成10年に策定された公園墓地整備計画のその後について掲載しましたが、それからの経過を報告します。

上人野地区内に一萬基の墓地を計画して、町が林野庁より約40haの山林を取得し、9億3900万円の事業費を町開発公社が銀行等からの借入れによって負担しており、計画中にオオタカの営業や事業採算が赤字見込みになるといふことで、平成15年3月以降事業を中止していることは、前述しておりませんが、その後、林野庁への買戻し要請も行っておりましたが進展しませんでした。しかし、当初取得時の契約条項の中にあつた、売主(林野庁)の同意のない事業計画の変更、用途や事業期間等に反したときの違約金の支払い条項等について

では、折衝の結果、削除されました。しかし、平成17年度より借入金金の元金返済に入っており、17年度1億円、18年度2億円、あと3年間に2億円ずつ返済しなければなりません。開発公社には返済力がありませんが、町が損失補償により支払っていくわけであり

ます。全国的には、財政悪化により破綻近くに追い込まれている自治体は、このような事業を拡大して行った結果によるものも多いと言われています。土地を町が取得したことは事実ですが、私は墓地開発を進める考えはありません。今後は、希少動植物保護や環境保全地域として残すか、自然と共生できる開発可能な方策があるのか、または土地を売却するのかが等を含めて検討していく考えであります。

## 文芸しるさと

### 俳句



類杖をして叱られて夜学生  
飯田 勇一  
冬の蝶風通し良き母の部屋  
飯村 昭子  
北風にばきばき乾く芋茎かな  
いそべ きよ  
うめもどきベッド友を癒しをり  
森 静江  
銀杏黄葉空濛荒れしまま乾き  
鯉 潤 寿美恵  
菊を折る菊に押し返されさうな  
竹内 幸子  
小鳥戯れ山茶花を散らしけり  
仲 まちえ  
草の絮気流に吸はるる如く消え  
高橋 若江  
落葉とき子雉に華美な羽の色  
今瀬 多代美  
散策の歩巾を濡らし草紅葉  
飯村 愛子  
鳥の声賑はひ桜帰りに咲き  
田所 厚子  
秋菊壺に挿すだけ折りにけり  
阿久津 あい子  
昭和南山荒れし山肌冬の鴉  
瀬谷 博子  
黄葉や落水白く那智の滝  
岩下 金司  
暮れゆくも「モチ」紅の実に兆し  
田口 勝元  
菊香る姉にもらしい菊の花  
市川 義子

### 短歌



法守る意識不足が持たらしめる後の断たない飲酒運転  
杉山 みちこ  
水運びて秋の野菜の種子を蒔く  
浸みゆく土に芽生えを括し  
宮本 ふみ江

岩松植ゑある手のひらほどの鉢  
二つ折水槽に入れて蘇生さす  
所 美恵子

江畔寺の普賢菩薩の慈悲の目に  
凛と咲きある山つつじの花  
青柳 京子

日の本に皇子生れたり万々歳  
天はひかりの花火を上ぐる  
山形 式妙

皇子誕生とふニユースにて朝  
より終日テレビの前を離れず  
藤原 千代

一歳の小さき意地の確とあり  
男孫は体たせ泣けて泣けり  
渡辺 千紗子

紅ばらに若き乙女の夢秘めし  
に野の草と生きたるを並へる  
秋山 愛子

淡々と一人作業の稲刈りは  
蒼空の下ゆつたりとすすむ  
大森 久子

列島は歡喜の渦に包まれたり  
親王さまの御誕生祝ごと  
高堀 よしの

見舞ふ度惚け重りゆく友の手を  
しつかり握り顔たしかめ合ふ  
佐川 あや

アワダチ草花粉が毒と言われし  
が野辺一面にみごと咲きおり  
阿久津 はつみ

庭先で友と語りて短歌づく  
り菊の香りのこぼれくる中  
岩下 通子

天高く冷気身にしむ八十路  
坂峰の紅葉に心癒さる  
仲田 こう

風強く木の葉さわぎて哀がえず  
空いや澄みてとんび飛び交う  
富田 欽子

空澄みて満開なしとささやかな  
の花いちだんと艶やかさまず  
ト部 まき子

見事なる夫の趣味なる菊花  
展見る人達の笑顔明るし  
阿良山 ウメノ

御前山の萩咲ききそう遊歩  
道美し眺めに心癒さる  
岩下 美知野

また来ると言つて孫達帰り行く  
車の中から手をさしのばし  
山口 栄

やわらかきよもぎ餅置くや妹は  
はや去りゆけり席つくる間に  
薄井 ひろ

ぼうぼうと蕎麦の花群ざわめけり  
畑いちめん風荒れゆけば  
枝 不美

旅行地図掲げてみてはまたたむ  
む脚力もとらず旅に耐へぬ身は  
片見 和枝

鉛色の雲の中來し浄土平風  
吹き荒れて黄葉紅葉飛ぶ  
川上 千代子

一輪のコスモス添えて持來たり  
り孫らはおやつを箱州の我に  
島 愛子

沙羅の花散り数く家は鎖し  
みて雨の参道登りつめたり  
多田 志保子

努つつ常に明るく病室に夫  
を見舞いぬ吾の日課なり  
坪井 きよ子

ゆく夏を惜しむが如く法師禪  
暫く鳴き止みまた鳴き出せり  
萩谷 登喜子

仏前に彼岸花として供えしが  
すでに紫桔梗が主顔しおり  
和知 美智子

秋の風吹きわたり来て癒やさる  
ること秋明菊が我庭にやさし  
富田 佐智子

### 川柳



わくわくの心カメラに覗かれる  
玉ネギを切つて泣いてることにする  
山本 隆莊  
子を叱る親は「おはば」に意見され  
富田 多蔵  
句作りも浮かばず休む秋夜長  
青木 新二郎